

藤沢  
税務署長  
賞

聖園女学院中学校 3年

石井 うらら

思いは教科書に

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。」

毎年四月、進級した私は、まだピカピカの教科書一冊一冊に記名をする。その時、必ず目に入るのが、記名欄の上にあるこの言葉だった。もし、これが全て有料だったら。なぜ、税金を使って配付する必要があるのか。この税金にどのような思いが込められているのか。多くを理解できなかった小学生の頃の私に、十五歳になった今の私は語りかけたい。

現在、日本には約九五〇万人の小中学生がいる。日本では中学校までを義務教育としているが、そこで使われる教育費（文教及び科学振興費）は、全体の教育費の約7割だ。この税金は、未来を見据えて私達に託されたもの。今後の日本を新たに支えていく若者だからこそ、これだけの税金が使われ、毎日勉強に励むのだ。一ページずつ丁寧にカラー刷りされた教科書には、そのような思いが込められていた。ではもし、税金が私達の教育費に使われていなかったら、どうだったのだろう。小学校の六年間で一人当たり約五五七万円、中学校三年間で約三〇五万円を各家庭が負担することになる。このことを知ると、いかに税金の凄さ、有難味を感じることができるだろう。義務教育課程を税金で負担することは、

世界的に行われている。ただそれが、とても容易なことではないことも今回改めて学んだ。国の税金の多くが教育費に充てられている。その事実には私達はしっかりと向き合っていければと思う。地球が回り続ける限り、世代のバトンも渡り続ける。あと十年もしたら、次は私が税金を納める立場になっているのかもしれない。学生の頃には感じられなかった思いにも気付くだろう。暇な時には余白に落書きをして遊んでいたあの教科書一冊の重み。それを感じた時には、あの言葉のように私も何かしらの形で社会の役に立てていければと思う。

同じ学校、同じ教室で、同じことを学んだ仲間とでさえ、それぞれバラバラの道に進むことになる。だが、どのような道を選んでも、間接的に社会を支える柱の一部になることに変わりはない。そして、社会を支える私達の土台は、税金で成り立つ学校で築かれる。このサイクルは、必要不可欠であり、この先もきっと消えてくならないものだろう。

勉強は確かに難しい。ただ、一ページだけめくれば、自分がときめくような新しい発見があるかもしれない。なぜならそれは、同じように教科書で学んだ多くの人達の思いが詰め込まれた、最高の一冊だから。

藤沢  
税務署長  
賞

茅ヶ崎市立鶴嶺中学校 3年

角 寄 葉 奈

幸せのバトン

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

もし、身の回りから税がなくなったらどうなってしまうだろうか。

私は今まで税について何も知らなかった。そんな私が初めて税に関するものをみつけた。「消費税10%へ国民アンケート」だ。これは賛成意見40%に対し反対意見60%のものだった。多くの理由は国民に負担がかかるから。実際税について何も知らなかった私もとくに大きな理由もなく反対していた。

そんな私の考えを変えるきっかけとなったものが世界のSDGs問題だった。「質の高い教育をみんなに」私はこれをみたとき日本の教育が頭に浮かんだ。9年間の義務教育、整備された学校、日本にあたりまえにあるこの環境が税のおかげだと知ったのはこの学習がきっかけだった。

そんな税には様々な種類がある。1番身近にある消費税。ではなぜ多くの人々が消費税増税へ反対意見を述べるのか。それは欠点ばかりに目を向けて税のありがたさを感じられている人が少ないからだと思う。

もし、身の回りから税がなくなってしまうと、私たちは日本に数多くある「公共サービス」を利用できなくなってしまう。病院に行くにも、公園で遊ぶにも今まであたりまえに利用していたサービスは利用できなくな

る。私たちの身の回りにはこのように税によって成り立っているものが数多くある。私はこれを考えてから税の大切さや人間は税を支えられて生きているのだと感じた。また、人間は税を通じて支え合って生きているのだと思った。それを私たちが1番に感じられるのが教育なのだ。前にもかいたように日本は義務教育であり誰もが平等に学校に通うことができる。さらに進級すると配られる教科書。これは両親をはじめとする様々な人からの期待がこめられているものだと思う。教科書の裏に小さく書かれたメッセージ。これは日本の全国民が納めた税金からできているものだ。しかし世界には先生がいないことや教育費の問題など様々な理由で勉強の環境を奪われている子供たちが沢山いる。そこで日本は60年にわたり政府開発援助を通じた国際貢献を行っていることを聞いたことがある。国の収入源は私たちが納める税だ。つまり私たちが納める税は国境をこえて様々な人の為となり、人々を繋ぐ幸せのバトンになっているのだと思う。これこそ税の役目だ。そうならば日本にいる私たちの役目は学校にある支給された沢山のもの、1人1人に配られる教科書などをもっと大切に使うことだと思う。

中学生である今はまだ消費税を払う以外に貢献できていないけど、成人して1人の納税者となったら、私も今ある恵まれた環境への恩返しとして、世界を繋ぐ幸せのバトンを繋ぎたいと思っている。